

# 世界文化遺産・平泉紀行

2011年6月。世界文化遺産登録が決定した。岩手県平泉は、大崎市と歴史的に所縁のある街。その歴史を学べば、鳴子温泉からの1時間30分(70km)のドライブコースも、もっと魅力あるものになるはず。

## 世界文化遺産登録までの道

『中尊寺』や『毛越寺』など、多くの遺跡・景観が守り伝えられている岩手県平泉。平安時代末期、奥州藤原氏四代が約100年にわたり、変化に富んだ地形を生かしながら独自に発展させた文化遺産群は、世界で類を見ない貴重な遺産として評価されている。2001年に世界遺産の暫定リストに掲載された

これら「平泉の文化遺産」は、2008年に登録延期の決議がなされたが、2011年6月、ついに登録が決定。「平泉-仏国土(浄土)を表す建築・庭園及び考古学的遺跡群」として、『中尊寺』『毛越寺』『観自在王院跡』『無量光院跡』『金鶏山』らが文化遺産として登録された。



▲平安時代の作庭様式を残す貴重な庭園「毛越寺浄土庭園」。



▲「中尊寺」山内の覆堂の中には、眩いほどの輝きを放つ金色堂が、大切に保管されている。

## 平泉・黄金文化のはじまり

安倍氏と源頼義・義家親子の戦い「前九年合戦」。安倍氏が滅びたこの戦いのとき、藤原清衡の父、経清は安倍氏に加担していたため殺されたが、清衡は母が敵方の清原武貞と再婚したため命を助けられた。のちに清衡は家督相続争いの「後三年合戦」に巻き込まれるが、またしても奇跡的に生き延びる。その後清衡は長く続いた戦から非戦を決意。平泉に館を移し『中尊寺』を建立。ここから約100年にわたる平泉の黄金文化が幕を開けることとなる。

## 義経討伐から奥州藤原氏の終焉

時は鎌倉時代。兄・源頼朝と対立した源義経は、藤原三代秀衡を頼り奥州へ赴く。その逃亡の途中に通ったという伝説が残るのが、現在の大崎市鳴子温泉。そもそも鳴子という地名は、旅の途中に生まれた義経の子が産声を上げた「啼子(なきこ)」が転じたものとも言われている。無事平泉に身を寄せた義経だったが、頼朝は奥州藤原氏に義経の引渡しを要求。秀衡の子・泰衡は、渡しを要求。秀衡の子・泰衡は、なったのだ。



**定期観光バス「鳴子温泉・平泉号」運行!**  
鳴子温泉から平泉の観光に便利なバスが登場。  
問い合わせ / ☎022-771-5312(宮城交通(株))

■運行期間 / 10月1日(土)~11月20日(日)の金・土・日曜、祝日  
【行き】9:00鳴子温泉→花山自然薯の館→巖美溪→毛越寺→12:40平泉レストハウス  
【帰り】14:45平泉レストハウス→17:00鳴子温泉